

一馬博士 楠瀬良の“競走馬のころ” Vol.19

インターネットなど情報技術の進歩のスピードは、ドッグイヤーと呼ばれることがあります。犬の1年は人の7年に匹敵する、すなわち3歳の犬は人なら21歳にあたとされています。情報技術は他の分野にくらべ犬の成長スピードに近い速さで革新されていくということから、そう呼ばれているわけです。一方、ドッグイヤーよりもう少し穏やかな変化をする場合をホースイヤーと呼ぶことがあります。ホースイヤーと言った場合の変化のスピードは、ドッグイヤーの半分くらいといったところでしょうか。

ホースイヤー

質問：昨年11月に東京競馬場でほんとうに久しぶりにオグリキャップに会うことができました。種牡馬生活も(小生と同様)引退したそうですが、まだまだ若々しくて元気そうでした。あのときオグリキャップは確か23歳ということでした。そこで質問ですが、オグリキャップは人間でいえば何歳にあたるのでしょうか。それからサラブレッドの長寿記録はいくつなのでしょう。

(73歳 男性 競馬歴：50年)

答え：普通、馬の年齢は4、5倍すれば人間の年齢に換算できると言われます。オグリキャップは21歳のとき2頭の繁殖牝馬に最後の種付けをして種牡馬生活を引退しました。仮に人の年齢に換算するときの掛け算の係数が4とすると、オグリキャップはこのとき84歳ということになります。画家のピカソは67歳で子供を作っていますが、

男性が80歳を過ぎても子供を作る能力を有しているかどうかは、はなはだ疑問です。もっとも種牡馬の場合は交配相手は毎回変わります。相手が変わればワシだって、というお爺さんはいるかもしれません。

そもそも動物の年齢を単純な掛け算で人の年齢に換算するということには無理があります。

馬は出生後、短期間で急速な成長をとげます。たとえば出生直後の体重が、人では6か月かかって倍になるのに対して、馬では1か月で倍になります。サラブレッドはおよそ6か月齢で離乳されますが、この時期は行動の幼さから見て、人では小学校の入学年齢の6歳くらいにあたりそうです。ですから当歳時には馬は人の6～12倍のスピードで成長しているともいえます。

3歳になった競走馬たちはオークス、ダービーに向けてしのぎを削ります。これらの馬たちが目指す二つのレースは、毎年5月の下旬から6月の中旬にかけておこなわれますが、この時期は人でいえば16歳くらいにあたることされています。成長のステージや生殖器の成熟ぐあいを考えた場合、この年齢換算はほぼ妥当なところといえるでしょう。

またサラブレッドの競馬におけるパフォーマンスのピークは平均的には4歳秋とされています。競馬と生体負担度が良く似ているとされる陸上800m競走の男子世界記録はキプケテルが26歳のときにつくったものですが、サラブレッドの4歳秋は人に換

楠瀬 良(くすのせ りょう)

農学博士・獣医師
現職：JRA競走馬総合研究所
企画調整室長



1951年生まれ。1975年、東京大学農学部畜産獣医学科卒業。同大学院・群馬大学大学院を経て、1982年JRA競走馬総合研究所勤務。以後、同研究所で一貫して馬の心理学・行動学の研究に従事。運動科学研究室長、生命科学研究室長を経て2006年より現職。著書に「サラブレッドはゴール板を知っているか」(平凡社)、「サラブレッドは空も飛ぶ」(毎日新聞社)、「アルティメイトブック馬」(緑書房：監訳)など。

算すればそのくらいの年齢ということになるでしょうか。

ちなみに世界の最長寿記録は馬で62歳、人では122歳だそうです。

さて今年24歳になるオグリキャップですが、縷々総合的に判断して人でいえば70歳前後、まさに質問された方と同年齢くらいといえるのではないのでしょうか。

馬の長寿記録

馬の最長寿記録は先にも述べましたがギネスブックによるとオールドビリー (Old Billy) という英国で飼われていた馬で、1822年まで62年間生きてそうです。ただしこの馬は中間種(いわゆる雑種)の馬でサラブレッドではありません。

サラブレッドの日本最長寿記録ホルダーはシンザンです。シンザンは戦後の高度経済成長期に活躍し、競馬の大衆化に大きく貢献した立役者ともいえる存在です。1964年に三冠馬となったシンザンは、種牡馬となった後も多くの産駒を送り出し、1996年7月に35年3か月の生涯を閉じました。この年齢は人間に換算すれば優に100歳を超えているものと考えられます。

また長寿のサラブレッド繁殖牝馬として有名だったのは2頭の日本ダービー馬の母イサベリーンです。イサベリーンはアイルランドから輸入された牝馬で、初子のヒカルメイジが1957年に、第三子のコマツヒカリが1959年にそれぞれダービーを制しています。イサベリーンは1978年11月、34歳6か月の生涯を終えました。

こうしてみると名馬は長寿のように思えますが、功労のあった馬だからこそ老後も深い愛情に支えられて長生きしたとすることもできます。ちなみにサラブレッドの世界最長寿記録ホルダーはオーストラリアのタンゴデューク (Tango Duke：1935-1978) で42歳まで生きました。この馬は最長寿のサラブレッドとしてのみ有名で、競走馬としては特筆すべき馬ではなかったようです。

さて、質問をいただいた方は競馬歴50年ということで、シンザンはもちろんヒカルメイジもリアルタイムでご覧になったかもしれません。これからもオグリキャップのように元気に、シンザンのように長生きをされて競馬をお楽しみください。

(次回は3月9日発売号)



シンザン：戦後復興期の競馬を盛り上げた主役であるばかりでなくサラブレッド長寿の日本記録ホルダーでもある